

令和6年度 第1回 長野市歴史的風致維持向上協議会会議記録（概要）

日 時：令和6年7月23日（火）

午後2時から午後3時37分

場 所：長野市役所第一庁舎7階

議会事務局 第一・第二委員会室

●出席委員 15名

久米委員、小林委員、高見澤委員、土本委員、樋口委員、宮下委員、若山委員、清水委員、長尾委員、古畑委員、徳武委員、水上委員、塚本委員、小林委員、北澤委員

1 開 会

- ・会議は公開で開催し、傍聴者は無し
- ・委員総数15人中、委員15人の出席により、定足数を満たしたため会議は成立
- ・長野市歴史的風致維持向上計画（第2期）が、令和6年3月18日付で国から認定されたことを報告

2 事務局紹介

- ・事務局職員の紹介
- ・事業担当課職員の紹介

3 委員委嘱及び紹介

- ・委員の委嘱
- ・委員を紹介

4 会長及び職務代理者選出

- ・会長に 高見澤秀茂 委員、職務代理者に 宮下健司 委員を選出

5 諮 問

- ・諮 問：長野市長（まちづくり課長が代理）から高見澤会長あてに諮問
- ・諮問内容：長野市歴史的風致維持向上計画（第2期）の令和6年度 進行管理・評価及び計画の変更について

6 協 議

- (1) 長野市歴史的風致維持向上計画（歴まち計画）第2期の概要について
 - ・事務局より歴まち計画（第2期）の概要版により説明
- (2) 歴まち計画の進行管理・評価及び計画の変更について（諮問内容説明）
 - ・事務局より「資料1」により説明

(3) 令和6年度の歴まち計画に係る事業について

- ・事務局及び事業担当課職員から、「資料2-1、2-2」により説明

質問：2地域に残る伝統と生業の伝承に関する事業のうち、(2)-3 弥栄神社の御(委員) 祭礼屋台巡行支援事業について、先日、ながの祇園祭が開催され、屋台巡行中に屋台の車輪が壊れ動かなくなる事態となった。現状では、ながの祇園祭に参加する屋台を一定数確保することが大変な状態であると聞いている。毎年、参加すればやり方も引き継がれていくが、何年かに1度の参加である。順番が回ってきても、参加人数をそろえることも大変な状況である。13年目の開催で無事に終わってほっとしているが、無念の町もあったのではないかと。今後、続けて開催してもらいたいが、この事業にどのように助成がされていくのか。また、どの地域でも修繕の支援を受けたいという思いはある。市としては、どのようにバランスをとって支援していくのか。

回答：ながの祇園祭は、要領に基づき屋台の組み立てや解体費用に対し、一部を(市) 補助している。広報費や県立大学の学生に参加してもらうための経費などについては、市から助成することができるが、人材の確保など祭りの直接的な運営については、実行委員会及び運行町が行う業務であると考えている。市は祭りに関する後方支援をすることとしており、その役割分担については実行委員会と話し合っているため、ご理解いただきたい。ながの祇園祭に限らず、市内のどの地域の祭りでも担い手不足が発生し課題となっている。行政の公平性の観点から、市から補助金を拠出している祭りについて、後方支援となることをご理解いただきたい。本年度のながの祇園祭に関する予算額は770万円である。その内、屋台等の補修に対する予算は20万円であり、今回壊れた屋台の補修費用へ充当できればと考えている。

意見：市内のお祭りの継続が困難となっている中で、市民の思いや願いをどのよ(委員) うに引き継いでいったらよいのか。市民の機運を高めることについて、市も力を注いでいただきたい。

回答：ご指摘のとおり担い手不足については、第1期計画から課題である。なが(市) の祇園祭で県立大学の学生の皆さんが屋台の引手として参加いただいたというお話もありましたが、SNSなどを活用しながら若者世代への情報発信を強化し、まずは関心を持ってもらい、顔を出してもらうなど、裾野を広げる事業に取り組んでいくほか、既存の個々の事業の中でも関心を持ってもらえる取り組みを行うなど、情報共有を図りながら進めていきたい。

意見：後方支援の助成を行うということであったが、コロナウイルス発生前には、(委員) 長野県建築士会の匠の会の大工さんが、ながの祇園祭の屋台の組み立てに協力していたことがあった。コロナウイルス感染拡大によりお祭りが中断されたことにより、今回のながの祇園祭では協力ができていない。技術不

足により屋台の車輪が動かなくなったことについて、ボランティア的な要素であっても、技術を持った職人がいる時代であるので、実行委員会と連携し協力体制を取り、例えば組み立て方法を図解で記録に残すことにより、手伝ってもらえる担い手の確保や技術の継承につなげられるのではないかと。

意見： 昨年のながの祇園祭では、県立大学の学生に西後町で参加してもらい、今年（委員）は問御所町で参加してもらったので、引手が 200 人となった。県立大学の学生寮にながの祇園祭への参加をお願いに行ったところ、「出てもいいのですか」という反応があり、参加者が膨れ上がったようだ。若い方は伝統的祭礼などに触れる機会が少ないので、このような取り組みが地域の活性化につながればと思う。

意見： 担い手不足や祭礼の継承などが課題である「2 地域に残る伝統と生業の伝承（委員）承に関する事業」と、「4 歴史的風致を生かした観光振興、地域活性化に関する事業」は、物凄く重要な取り組みである。これまで行事やまち歩きイベントなどの活動を担ってきた皆さんが高齢化している中で、あと何年この活動を継続していけるのか重要な課題を抱えていると感じている。(4)-3 の公民館・交流センターでの歴史講座事業について、参加者数や参加者の年齢層、若い人が参加者数などのデータを追加することはできないのか。

回答： (4)-3 の公民館・交流センターでの歴史講座事業の参加人数は、善光寺が（市） 252 人、松代の開催回数が 23 回、参加者が 562 人、戸隠が 90 人、鬼無里が 55 人である。また、参加者の年代は、高齢者の参加が非常に多い状況である。実績報告の際は、参加者の年代や人数など記載していく。講座は、松代が地元の歴史などをテーマとしている。松代以外は、地区外の歴史などをテーマとしている。

意見： 講座の回数も参加人数も多いので、市内のその地域以外の方が積極的に参加（委員）できるような広報すると良いと考える。

意見： 本日の午前に出席した県主催の空き家対策問題を検討する会議で辰野町の（委員）取り組みとして、空き家バンク事業でホームページに情報を掲載するだけでなく、空き家利活用アドバイザーなどと辰野町の移住者の受け入れを推進しているまちづくり課と連携し、住みたい人の希望を聞きながら、希望にマッチする住宅と、希望者と地域住民とが上手く暮らせる条件などを吟味した上で紹介している。つなぎ手がきめ細かなところまできちんと仲介し、行政と一体となり空き家推進事業を進めている事例を聞いた。そこまで、一手間、二手間かけないと、長く住み続け、尚且つ、今後の地域の担い手として、重要な歴史や文化を引き継いでもらうことにつながらないと思う。4 歴史的風致を生かした観光振興、地域活性化に関する事業に関する全ての事業が、担い手などの確保につながる事業であり、お金だけでなく、人的派遣など、きめ細かなところまで支援できるように検討いただきたい。

回答：空き家バンク事業は、インターネット上で空き家情報を公開している状況（市）である。中山間地域の割合が高く、戸隠地区の登録が市内でトップである。

また、登録された空き家の7割が成約につながっており、市外からの移住者が5割を占めている。空き家対策の取り組みは、行政だけでなく、民間を含めて地域の方と協力しながら、増え続ける空き家の対策が必要である。また、空き家バンクのあり方について、今後検討を行っていく。

意見：戸隠地区以外の空き家バンク成約情報などの実績なども知りたい。また、（委員）インターネット上に掲載するだけでなく、移住を希望する人達に、長野市の良いところを紹介できる取り組みができれば、移住者が増加するのではないか。

回答：現在、移住者が増えている状況であり、移住者に地域の担い手となっても（市）らえれば良いと考えている。空き家バンクの実績等に関する情報については、公開できる範囲で情報提供させていただく。

意見：旧市街地でも空き家や空き店舗が増加し、さらに老朽化が進み、崩壊が始（委員）まっているものもある。空家等対策の推進に関する特別措置法の一部が改正されたので、空き家の固定資産税減額特別措置を除外してもらい、流動化を早く進めるようお願いしたい。

(4) その他

意見：第2期計画本編の42ページの第1章長野市の歴史的風致の背景の中に記載（委員）されている、佐久間象山を「さくましょうざん」としているが、地元松代に「象山（ぞうざん）神社」があり、また、県歌の信濃の国に「象山（ぞうざん）佐久間（さくま）先生」とあるので、「ぞうざん」で統一した方がよいのではないかと。

回答：計画全体では、「しょうざん」で統一している。松代地区では、「ぞうざん」（市）と呼ばれているので検討する。

意見：立派な厚い第2期計画ができたので、この冊子を活用し講座などを開催す（委員）ることで、市民の皆さんに長野市歴史的風致維持向上計画のことを広く知ってもらえる機会になるのではないかと。歴史だけでなく、問題点や重点課題なども含まれているので、活用してもらいたい。

回答：第2期計画は、関係する多くの課が参加し、問題意識を共有しながら策定（市）した。策定しただけでなく活用し、問題解決に向け連携強化を図っていきたい。

7 閉 会

文化財課長挨拶